

英語で自分の思いや考えを表現し合う力を伸ばす学習指導を目指して —話す活動における達成リストの活用と Small Talk の充実を通して—

大河原町立大河原中学校 門馬 直史

1 はじめに

昨年度から指導している本学年の授業では、「話すこと〔やり取り〕」の技能において即興的に伝え合う言語活動に重点を置いて指導している。自分に関することや身近なテーマについて英語で伝え合う活動を継続的に授業に取り入れることで、生徒たちは日常的な話題や関心のある話題などについて英語でやり取りできるようになってきた。しかし、社会的な話題など、より複雑な内容になると、やり取りを続けることに難しさを感じているようであった。思ったことや考えたことを英語で表現できなかった生徒の中には、タブレット端末の翻訳アプリケーションなどに頼った生徒がいた。その結果、自分でなく相手も理解できない難しい英語を使い、相手とのコミュニケーションがうまく取れない場面が見られるようになった。これから多様な社会の中で生きていく生徒たちにとって、自分の思いや考えをしっかりと持ち、互いを尊重し合いながら伝え合うことが大切になってくると考える。

生徒の実態を踏まえ、授業において、生徒が思ったことや考えたことを自分の言葉で表現する力を伸ばしていくような学習指導の在り方を探っていきたいと考え本主題を設定した。

2 研究の目的と方法

(1) 研究の目的

本研究は、日常的な話題や関心のある話題に加えて、社会的な話題など、より複雑な内容について生徒が英語で自分の思いや考えを表現し合えるようにするための学習指導の改善を図ることを目的とする。

また、主題において、相づちや質問、応答する技能の習熟を図るなど、双方向のコミュニケーションを重視しながら指導し、相手意識を高めたいと考え、「表現し合う」とした。

(2) 研究の手立て

① 身に付けさせたいリストの提示

「話すこと」の学習指導の際には、どのような姿を目指せばよいのか、生徒に具体的なイメージを持たせることが大切であると考える。具体的なイメージを持たせるために、1時間の授業の中で、「話すこと」における主となる言語活動（以下、「話す活動」とする）において、身に付けさせたい力を目標として示した項目をまとめたリストを作成し、生徒

に提示する。生徒は、活動の合間にリストを用いて、各項目の達成状況をペアで確認し合ったり、互いにアドバイスをしたり、活動後にリストを基に個々で振り返ったりする。また、教師は活動中の様子を見ながら、既習事項を用いた語句や表現を全体に助言したり、生徒の良い表現などを紹介したりする。

② 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

生徒が思ったことや考えたことを自分の言葉で表現させるために、二つの Small Talk を設定する。一つ目は、話す活動につながる既習の語句や文を活用して、技能の習熟を図りながら即興でやり取りする力を高める Small Talk であり、二つ目は、自分の思いや考えを整理して伝えるために、メモを活用させる Small Talk である。単元を通して、この二つの Small Talk を継続的に取り入れていく。

3 授業実践 I

(1) 単元名 Unit 3 Animals on the Red List

（東京書籍 NEW HORIZON English Course 3）

(2) 単元の目標

環境問題と私たちの生活とのつながりについて考えるために、絶滅の恐れのある動物について、自分の考えや気持ちを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

(3) 具体的な手立て

① 身に付けさせたいリストの提示

話す活動において、教師は始めに、リストの項目を意識したデモンストレーションを行い、生徒に目指す姿をイメージさせる。その上で、リストを提示し、個々に目標とする項目を選択させてから活動させる（図1）。

Today's Goal: 環境問題に関する文章を読み、自分たちの考えについて意見交換することができる。		
達成度	身に付けたいこと	相手への意識
S	<input type="checkbox"/> 正しい英文で自分たちの考えについて意見交換することができた。	<input type="checkbox"/> ①アイコンタクト ②声の大きさ ③速さ ④相づち ⑤反応と質問 ⑥つなぎ言葉 ①～⑥がすべてできた。
A	<input type="checkbox"/> 間違いはあったが自分たちの考えを意見交換することができた。	<input type="checkbox"/> 上記①～⑥のうち、3～4項目できた。
B	<input type="checkbox"/> 先生や友達に手伝ってもらいながら意見交換することができた。	<input type="checkbox"/> 上記①～⑥のうち、2項目できた。

図1 Unit 3 Read & Think 2 の目標とリスト

話す活動の後には、自分が目標として選択した項目について、リストを活用して確認し合わせ、生徒同士で表現を修正させる。表現できない語句や文に

については、教科書やワークシートを用いて振り返らせ、これまでに学習した語句や文を活用するようにヒントを与える。授業の終末では、話す活動の後にどのくらい目標を達成したかを自分自身で振り返らせる。教師は活動中の様子を見ながら、既習事項を用いた語句や表現を全体に助言したり、生徒の良い表現などを紹介したりする。

② 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

授業の導入では、動物に関する Small Talk を行う。話す活動の話題に沿って活用できそうな既習の語句や文を思い出させ、それらの技能の習熟を図るための Small Talk を行う。

本時の話す活動では、「動物を救え」というポスターに書かれたまとまりのある英文を読ませる。初めに、自分の思いや考えをペアで表現し合う前に、伝えたい内容を整理させるために、メモを作成する時間を設定する。次に、メモを活用しながら、ペアで話す活動の練習として Small Talk を行う。

（4）成果と課題（成果：○、課題：●）

① 身に付けさせたいリストの提示

○ リストを用いて、生徒自身が目標として選択した項目に向けて取り組むことによって、達成感を得た生徒が多く見られた。

○ ペア活動の後に、リストを活用して具体的に確認合うことで、生徒同士で表現の修正をしており、主体的に学び合う様子が見られた。

● リストの項目に抽象的な記述があり、生徒自身では達成状況の判断が難しいことがあった。

② 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

○ 授業冒頭の動物に関する Small Talk では、「ペットを飼っているか」という質問からやり取りを始めさせ、互いに相づちをしたり、質問を返したりして、やり取りを発展・継続させていた。既習事項を活用することで、技能の習熟を図るための活動になっていた。

○ Small Talk 後には、ペアで互いにアドバイスをしたり、表現できなかった語句や文について、話し合ったりしている様子が見られた。話合いできてきた表現を 2 回目の Small Talk で付け加えることができていた。

● ペアによっては、不自然な間があったり、会話が続かずに沈黙したりするなど、自分の思いや考えを十分に表現するまでに至らなかった。

● メモの作成に関して、伝えたいことを十分に整理できない生徒が見られた。

● Small Talk での生徒の表現を教師が拾い、個々への指導はできたが、時間が掛かり過ぎてしまい、既習事項を用いた語句や表現を全体に助言したり、生徒が使った良い表現などを紹介したりできなかった。

③ 授業でのやり取りの様子（表 1）

表 1 実際の生徒のやり取り

S1: What can you do to save the animals?
S2: Uh...I can buy recycle thing. I want to help animals (間) I can keep cleaning the sea (間) <u>because fish eats plastic. It's important.</u>
S1: Oh..., <u>I think so, too</u> ...I clean up the sea.
S2: Yes. ...What do you think?
S1: Uh....,I clean up the sea. (間) I learn about Earth environment. (間) <u>I learn about breed animals.</u>
S2: Oh,..... <u>Nice idea.</u>
S1: Thank you.

表 1 から、生徒の実際の話す活動でのやり取りでは、細かい間違いはあるものの、メモを基に自分の考えを表現できているペアが見られた。ペアでの学び合いの後のやり取りでは、1 回目で出でこなかつた表現を付け加えることができていた（表 1 の二重線部）。また、既習事項を用いながら、やり取りをつなげようとしていたが、深まりは見られなかった（表 1 の下線部）。

①から③の成果と課題を踏まえ、特にリストの具体的な活用方法、Small Talk で互いの思いや考えをより円滑に表現させる工夫、メモの作らせ方の三つを次回の授業実践Ⅱの際に考慮していく。

4 授業実践Ⅱ

（1）単元名 Unit 4 Be Prepared and Work Together (東京書籍 NEW HORIZON English Course 3)

（2）単元の目標

災害に関する文章を読み、メモを用いて自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。

（3）具体的な手立て

① 身に付けさせたいリストの提示

・ リストの項目の具体化

単元の始めに、単元を通して身に付けさせたい力を具体的な記述で示してリストにし、（以下、「達成リスト」とする）生徒に提示する（図 2）。

単元の目標&達成リスト	
日本に住む外国人が災害に備えられるように、災害に対する情報について、自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、質問に答えたりすることができる。	
達成リスト	
No.	☆
1	自分の考えを伝える力 メモを基に自分の考えを整理する
2	メモを基に自分の考えを整理して伝える
3	賛成や反対を伝える
4	賛成や反対の理由を伝える
5	これまでに学習した表現を活用する
6	相手の発言を受けて、自分のことを伝える
7	文章にはない内容まで対話を発展させる
No.	☆
1	会話をつなげる力 話すスピードや声の大きさを意識する
2	「つなぎ言葉」や「相づち」を使う
3	「一言感想」を言う
4	相手の発言を確かめる
5	相手の発言に対して質問をする
6	相手の質問に対して答える

図 2 Unit 4 で提示した単元の目標と達成リスト

さらに、達成リストの中から 1 時間ごとの授業において、話す活動で必要となる項目を絞って生徒に示し、その授業で身に付けさせたい力を焦点化する

（図3）。授業の振り返りの中で、本時の目標の達成状況を達成リストで確認させる。また、分からなかった表現や疑問点などを記入させ、その授業や次の授業で全体に助言したり、生徒の既習事項をうまく活用した表現などを紹介したりする。

今日の目標＆達成リスト																	
=目標とする項目のNo.を○で囲み、達成できたら△を付けよう！																	
Goal: 災害に関する文章を読み、メモを用いて自分の考えを整理し、簡単な語句や文を用いて伝えたり、相手からの質問に答えたりすることができる。																	
達成リスト																	
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>☆</th> <th>自分の考えを伝える力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>△</td> <td>メモを基に自分の考えを整理する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>△</td> <td>メモを基に自分の考えを整理して伝える</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>△</td> <td>これまでに学習した表現を活用する</td> </tr> <tr> <td>7</td> <td>△</td> <td>文章にはない内容まで対話を発展させる</td> </tr> </tbody> </table>			No.	☆	自分の考えを伝える力	1	△	メモを基に自分の考えを整理する	2	△	メモを基に自分の考えを整理して伝える	5	△	これまでに学習した表現を活用する	7	△	文章にはない内容まで対話を発展させる
No.	☆	自分の考えを伝える力															
1	△	メモを基に自分の考えを整理する															
2	△	メモを基に自分の考えを整理して伝える															
5	△	これまでに学習した表現を活用する															
7	△	文章にはない内容まで対話を発展させる															
<table border="1"> <thead> <tr> <th>No.</th> <th>☆</th> <th>会話をつなげる力</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>1</td> <td>△</td> <td>話すスピードや声の大きさを意識する</td> </tr> <tr> <td>2</td> <td>△</td> <td>「つなぎ言葉」や「繰り返し」を使う</td> </tr> <tr> <td>5</td> <td>△</td> <td>相手の発言に対して質問をする</td> </tr> <tr> <td>6</td> <td>△</td> <td>相手の質問に対して答える</td> </tr> </tbody> </table>			No.	☆	会話をつなげる力	1	△	話すスピードや声の大きさを意識する	2	△	「つなぎ言葉」や「繰り返し」を使う	5	△	相手の発言に対して質問をする	6	△	相手の質問に対して答える
No.	☆	会話をつなげる力															
1	△	話すスピードや声の大きさを意識する															
2	△	「つなぎ言葉」や「繰り返し」を使う															
5	△	相手の発言に対して質問をする															
6	△	相手の質問に対して答える															

図3 授業実践Ⅱで示した目標と達成リスト

② 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

- 既習事項を活用して技能の習熟を図る Small Talk

既習事項を取り入れながら、即興でやり取りさせる練習を行う。場面を限定して相づちや質問の返し方、同意する・同意しないなど、様々なパターンの Small Talk を行い、既習事項を取り入れながら技能の習熟を図る。また、単元の話題に関係のある語句や表現の既習事項を中心にまとめたワークシート（以下「お役立ちシート」とする）を作成し、毎時間 Small Talk などの活動の際に活用させる。生徒がお役立ちシートを活用して既習事項を繰り返し口に出したり聞いたりすることで、既習事項を円滑に表現できるよう継続して指導していく。

- 思考力・判断力・表現力を高める Small Talk

本単元は、災害に対する外国人の体験談などを読み、その外国人の状況や背景を理解した上で、自分の思いや考えを表現することを最終ゴールとしている。社会的な話題という、より複雑な内容におけるやり取りの中で、既習の語句や文を活用する場面を設定し、思考力・判断力・表現力の伸長を図る。そのために、メモを活用させ、自分の思いや考えを相手に分かりやすく伝えることができるようとする。まず伝えたいことのキーワードをメモし、次に、伝える順番やキーワードの主語と述語を考えさせる。そして、そのメモを見ながらやり取りするようとする。また、話す活動をより充実させるため、生徒の活動の実態を見極めて、計画していた活動回数を調整し、ペア活動後に自分が話した英語を再考する時間を十分に確保する。

（4）成果と課題（成果：○、課題：●）

① 身に付けさせたいリストの提示

- 達成目標を項目として細分化したことで、生徒の振り返りへの記入が具体的になり、生徒の課題が明確になった。また、生徒が記入した達成リストと振り返りから、難しかった点や大切な点などを教師が確認し、全体に紹介することができた。
- 本時に示した達成リストの項目が多かつたにも関わらず、生徒は意欲的に取り組み、自分が目標

として選択した項目以上に、多くの項目を達成することができていた（活動前に選択した項目に○、できたところに☆を記入させた）。（図4）

達成リスト		
No.	☆	自分の考えを伝える力
1	△	メモを基に自分の考えを整理する
2	△	メモを基に自分の考えを整理して伝える
5	△	これまでに学習した表現を活用する
7	△	文章にはない内容まで対話を発展させる

達成リスト		
No.	☆	会話をつなげる力
1	△	話すスピードや声の大きさを意識する
2	△	「つなぎ言葉」や「繰り返し」を使う
5	△	相手の発言に対して質問をする
6	△	相手の質問に対して答える

図4 本時に生徒が記入した達成リスト

- 生徒にイメージを持たせ、思いや考えを引き出すために、達成リストの各項目の具体例をデモンストレーションで示したが十分に伝わらず、思いや考えを表現できない生徒の姿が見られた。

② 自分の言葉で思いや考えを表現し合うための Small Talk の充実

- Small Talk で練習した表現を活用して、自分から質問したり、質問に答えたりすることができており、授業実践Ⅰと比べてやり取りを発展させる姿が見られた。
- 単元を通して、メモの作り方を練習する時間を設定し、メモを基に話す練習を繰り返したことにより、伝えたい内容を整理して話している生徒が見られた（図5）。

メモ	typhoon is coming = flood warning	メモ	information mail.
	near river → escape shelter		typhoon
	mustn't go river		shitoishi River
	Do you live near river?		Don't neat the river, what do i have?
			neat the river → go to shelter

図5 生徒が作成したメモ

- ペア活動後に自分が話した英語を再考させる時間を十分に確保することで、生徒同士が学び合いながら表現を修正している姿が見られた。
- 授業導入において行った、身近な話題として非常時持出袋についての Small Talk を、話す活動でのやり取りに十分に生かされていなかった。
- 事実を簡単に伝えることで終わり、質問をしたり、返答したりするまでには至らなかつた生徒が見られた。

③ 授業でのやり取りの様子（表2）

表2 実際の生徒のやり取り

S3: Hi, Luke.
S4: Hi, (生徒3). What happened?
S3: It's dangerous because of influence of typhoon. Maybe river is flooding. Please escape to the shelter. Do you know where shelter is?
S4: I don't know. Tell me about it.
S3: Uh..., shelter is Ogawara elementary school. Do you know where?
S4: Yes. Thank you very much.
S3: OK.

表2から、避難勧告情報メールを読んでまとめた

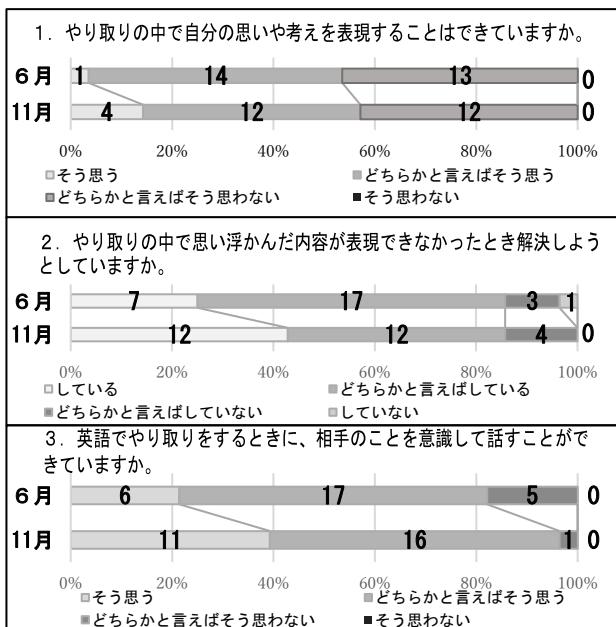
メモを基に、自分の言葉で考えを表現していた生徒の発話が読み取れる（表2の下線部）。また、相手を災害から避難するために、生徒自身が既習事項を使って考えた質問をすることができていた（表2の波線部）。その質問への答えに対して、そこでやり取りを終わらせず、更なる情報を求めて話すことができていた（表2の破線部）。このように、多くのペアが相手の発言に対して質問するなど、やり取りを発展させることができた。

5 研究の成果と課題

（1）研究の成果

① 意識調査の結果から（表3）

表3 意識調査結果（28名）



質問1と質問2において、肯定的な回答と否定的な回答の割合はそれほど変化がなかったが、「そう思う」や「している」の割合は増加した。一方、質問1において、否定的な回答をしている生徒の割合がほぼ変化がなく高い割合となった。しかしながら、否定的な回答をした生徒の記述内容から、「難しかった」というだけの記述が減り、達成リストの中のできなかった項目に対して、具体的にどのような点ができなかったか、更にその改善方法などを記述する生徒が増えた。

質問3からは、ほとんどの生徒が「相手意識」を持ってやり取りをしていることが分かる。話す活動の中で、相手への伝わりやすさを意識して既習の語句や文を用いたり、相づちやつなぎ言葉を使ったりして、自然な流れで円滑に対話をつなげられるようになってきている。

② 授業の見取りやワークシートの振り返りから

社会的な話題など、より複雑な内容について、達成リストを活用し、Small Talkを積み重ねることによって、自分の思いや考えを表現し合う様子が見ら

れるようになってきている。特に、授業実践Ⅱで達成リストの項目をより具体的な記述にして以降、各授業の話す活動にこれまで以上に積極的に取り組んでいる様子が見られる。

また、ワークシートの振り返りでは、意識調査の質問1で否定的な回答をした生徒も、「できるだけ習った表現を使ったので良かった」「メモを基に相手に伝えられたので良かった」といった記述が見られ、自分の思いや考えを表現し合う活動に対して前向きに取り組んでいると言える。

（2）今後の課題

① 達成リストについて

本研究を通じて、達成リストを活用して話す活動に取り組む姿や生徒同士で主体的に学び合う姿が見られるなど、主題に迫るものとして有効であると感じている。今後は、生徒の主体的な学びを生かしながら、既習事項をうまく活用させる指導が必要であると考える。そのために、生徒の良い事例や分からなかった表現などをTVモニターに映し、全体で学ぶ時間を設ける。そして、生徒自ら必要な表現を取り入れて、自分の言葉で伝えられるができるような指導の工夫を行っていきたいと考える。

② Small Talkについて

授業実践の課題を踏まえ、既習事項を活用して技能の習熟を図るSmall Talkが思考力・判断力・表現力を高めるSmall Talkに、より効果的につながるように、話題設定や使用させる語句や文、単元のどの時間に実施すべきか、考えを更に深められるように考慮し、二つのSmall Talkを関係付けながら、思いや考えを表現する練習を繰り返し取り入れていきたい。

メモの作らせ方については、大切な語句に印を付けさせたり、関連する語を線や矢印でつなげさせたりして、より短時間で分かりやすく話したい内容を整理できるように指導していきたいと考える。

以上のように、これらの手立てについて実践と改善を繰り返しながら指導する。「コミュニケーションを取ることが楽しい」と思い、自信を持って自分の思いや考えを表現することができる生徒の育成を目指し、授業づくりに励んでいく。

【引用・参考文献】

- 文部科学省：「中学校学習指導要領（平成29年告示）解説 外国語編」 2017

【図表等の許諾について】

表1、表2は授業での実際の生徒の発話記録である。表3は、実践前後に実施した生徒への調査結果である。図4、図5は授業実践の中で生徒が記入したワークシートの一部である。研究の目的にのみ使用することとし、生徒の保護者及び所属校の校長から使用許諾を得た。